

会員通信

2024.2
Vol.44

- ネットワーク会員に聞きました!…… 1
「漢検1級・準1級受検の失敗談」
- 第36回 研修会報告 …………… 2・3
- ネットワーク会員地域別分布状況… 4
難読地名クイズ
- 漢字の小径(コラム) …………… 5
- 見かけによらない漢字たち …………… 6
- サポーターリレーコラム …………… 7
- 投稿募集 …………… 8

ネットワーク会員に聞きました!

今回のアンケートテーマは「漢検1級・準1級受検の失敗談」です。 ネットワーク会員の皆さまに教えていただきました!
(回答者:23名)

うっかり編 ㍻

音読みを聞かれているのに、ずっと訓読みで答えていた。答え合わせをすると、合っているはずなのに間違えていて…きちんと「問題文」を読む!と基礎を頭に刻んだ。



漢検準1級受検時、「稜線」と書く問題があったが、「線」の右下の字形を「したみず」にしてしまっていた。ずっと間違っていて覚えていた。「常用漢字も侮ってはいけない」と、自分に言い聞かせるようになった。



漢検準1級受検時、「逆旅」の「旅」の一点を間違えた。結果は159点で、初合格まであと1点という惜敗。次の検定までに臥薪嘗胆の気持ちで知識を深めて、2021年度第1回に合格した。



1級の書き取りで、最初の方の分からない問題を飛ばしたことから、解答欄が1つずつズレてしまった。最後の問題で漸くミスに気づき、20問近い答えを大慌てで書き直す羽目に…。



学習方法編 ㍻

漢検準1級には6回ほど落ちていて、その理由として思い当たる節があった。実は、2級の勉強を全くしてなくて、2級の四字熟語や対義語、類義語で毎回落としていた。それに気づいて勉強したら、受かることができた。基礎を疎かにしてはいけないことを学んだ。



同じ意味で同じ訓読みをする字(鬱塞 杜:“ふさぐ”など)をまとめて覚えておけばよかったと思った。その漢字が熟語の中で出てきたときに意味を予測しやすくなるし、単純に知識同士がつながると覚えやすくなるはず…現在1級勉強中なのでこれからは非役立てていこうと思う。



テキスト編 ㍻

漢検準1級に3度目の受検で合格した。1回目と2回目の検定に落ちた理由は、巻末資料や付録資料に手を付けなかったことだと考えている。漢検対策のテキストを受検1ヶ月前までに終わらせて、残りの1ヶ月で巻末資料や付録資料で更なる対策を行えば良かったと思った。



初受検で惨敗した後の2022年夏、合格点まで届く為にどうしようかと、本屋であらゆる準1級のテキストを買ってしまった。今思えばこれは無駄だった。少ないテキストを完璧に仕上げるのが合格の捷徑だったと後悔している。



参考書をひたすら眺めるだけだと、過去問演習では全く歯が立たず、受検日当日も分からない問題だらけだった。今回合格を頂いた背景には、今までの経験から反省して、ひたすら過去問演習を頑張ったというのがありと信じています。



※文面は、ご投稿内容を元に編集しています。

編集部より コメント

ご回答ありがとうございました! 受検中のうっかりミスや学習方法など、様々な失敗談が集まりましたが、皆さんの中でも思い当たるものはありましたか? 失敗をどう次へと活かすか考えることが、成功へのカギかもしれません。載せきれなかった投稿はメルマガにてご紹介いたします!

今回のアンケートテーマは「漢字以外で熱中していること」です。回答方法は8ページをご覧ください!

研修会 報告

第36回 会員向け研修会を開催いたしました。

2023年11月5日(日)に漢検 漢字博物館・図書館(漢字ミュージアム)にて、会員向け研修会を対面開催し、約42名の方にご参加いただきました。
ご講演内容を簡単にご紹介いたします。

「江戸時代料理書の漢字」

龍谷大学文学部教授 余田 弘実 先生



1. 江戸時代の料理書について

料理書の始まりは、中世に庖丁式、式庖丁など儀式を記したものである。ただし、中世は料理書に限らず、和歌やほかの本なども各流派で秘伝とされており、広く流通したのは、近世になり版本が出版されるようになってからである。

最初に版本として出されたと言われているのが、1643年の『料理物語』である。この本は非常に有名で、江戸時代にも『料理物語』を引用する本は多く、幸田露伴も料理書の解題をまとめている。ただし、この『料理物語』はプロの料理人に対して書かれた本であった。

時代が下り、1782年には『豆腐百珍』、1783年には『豆腐百珍続編』、その後も『鯛百珍秘密箱』『大根料理秘密箱』などが続いて出版された。これらの「百珍物」と呼ばれる書物は著者も読者も料理のプロではない点や、

一つの材料に対する調理法をたくさん挙げている点など、現代の料理書にも似た特徴を持っている。

なお、中世の式庖丁は男性が行うものであったように、「百珍物」も含め料理の本は男性が楽しむものであった。1849年には『年中番菜録』という女性向けの料理書が出され、そこから明治時代に西洋の文化も入って、料理の本は女性に向けたものに変化していった。

また、1600年代の料理書はプロ向けに献立の組み合わせを書くのが主だったが、1600年代終わり頃から素人向けに挿絵や表紙で売れるように装丁を工夫するようになった。プロ向けの本なら省略できることも、素人向けなら情報が伝わるように書かなければいけなくなった。これが現代まで通ずる料理書の流れである。

2. 江戸時代料理書の漢字

普通は和文で序が書かれるところを『豆腐百珍』では、漢文体で書かれている。『豆腐百珍』は、『本草綱目』などいろいろな本から豆腐に関する知識が集められており、料理を作るためだけでなく、知識層が読んで楽しむ本でもあった。

『豆腐百珍』『豆腐百珍続編』(以下『続編』)は、1697年に出された『和漢精進料理抄』や、1730年に出された『料理綱目調味抄』などから引用されている。『豆腐百珍』『続編』はこの2冊をそのまま引用せず、漢字表記も変えて引用している。

例えば『和漢精進料理抄』では、「ニル」の表現の9割

が「煮」という漢字で表記されている。次に使われているのは平仮名表記で、他にも「煎」と書いて「ニル」と読ませている表記も存在する。「煎る」は普通の「煮る」よりも水分を少なくしていることを表しており、漢字によって使い分けられている。ちなみに「ヤク」という表現は1つもなく、「ムス」「アゲル」「イル」は漢字ではなく平仮名表記で書かれていた。

『料理綱目調味抄』では、「ニル」の表現は「煮」の次に「烹」という漢字が多く使われている。「ヤク」は「焼」、「ムス」は「蒸」でそれぞれ平仮名表記も存在する。「アゲル」は平仮名が大半で、「揚」も使われている。「イル」は平仮

名表記と「炒」と「煎」、「熬」という強い火力を連想させる漢字も使われており、漢字のイメージから炒り方を想像させている。

一方、『豆腐百珍』と『続編』ではこれらの表記の傾向が踏襲されていない。「ニル」は「烹」か「炙」のどちらか、『続編』では「烹」が「煮」よりも若干使用例が多い。「ヤク」には、「炙」「焼」という漢字と、平仮名表記が使われている。『続編』はほかに「ヤク」に「炒」「焦」という漢字を使っている。「ムス」は「蒸」という漢字のみだった。『豆腐百珍』では「アゲル」で一番多く使用されていたのは「燂」という漢字で、次に「油燂」だった。『続編』は圧倒的に「燂」が多

く使われていたが、「燂」が一例だけあった。『豆腐百珍』も『続編』も「アゲル」の平仮名表記はなかった。

普段とは違う字で表現されていることに現代の料理書には見られないこだわりがある。どういう揚げ方、煮方をするかを漢字で書き分けてあるのは、読みながらどういう調理法を表しているのか考えることができるため、料理好きならばきっと楽しいのではないだろうか。漢字を学ぶ楽しさの一つに、「見たことがない漢字や読み方に触れること」があると考えるが、これらの江戸時代の料理書を読むときの面白さと繋がる部分があるのではないか。

3.『豆腐百珍』『豆腐百珍続編』で見られる漢字

最後に『豆腐百珍』『続編』に出てきた漢字表記をいくつか紹介する。

「寒郷僻地」は「かたいなか」。「厳醋」は強い酢のことを指し、徳島あたりに残っている「きぶい」という方言から「きぶいす」と読む。「骨董乳」は「ごもくとうふ」。骨董は古臭いというよりも貴重という意味だろう。「文武火」は「つよからぬひ」。『豆腐百珍続編』には「武火」で「つよきひ」、「文火」と書いて「ぬるひ」が出てくる。「菽腐」は「とうふ」、豆が腐ったと書いてある。

「雪花菜」は「とうふのから」。「菜」はおかずという意味である。「雪花菜」は現代では「おから」と読むが、「お」がつくのは「おしゃもじ」をはじめ女房言葉といわれ、料理書には出てこない表現となっている。料理書は話し言葉

ではない。「作腐家」は「とうふや」、「百草霜」は「なべずみ」と読み、かまどを焚くときにいろいろな草で焚いて、炭になったものを漢方薬にするという。「腐衣」は「ゆば」だ。

これらの表記からも、『豆腐百珍』『続編』では料理書という形の中で漢字を面白がって扱っていることがわかる。



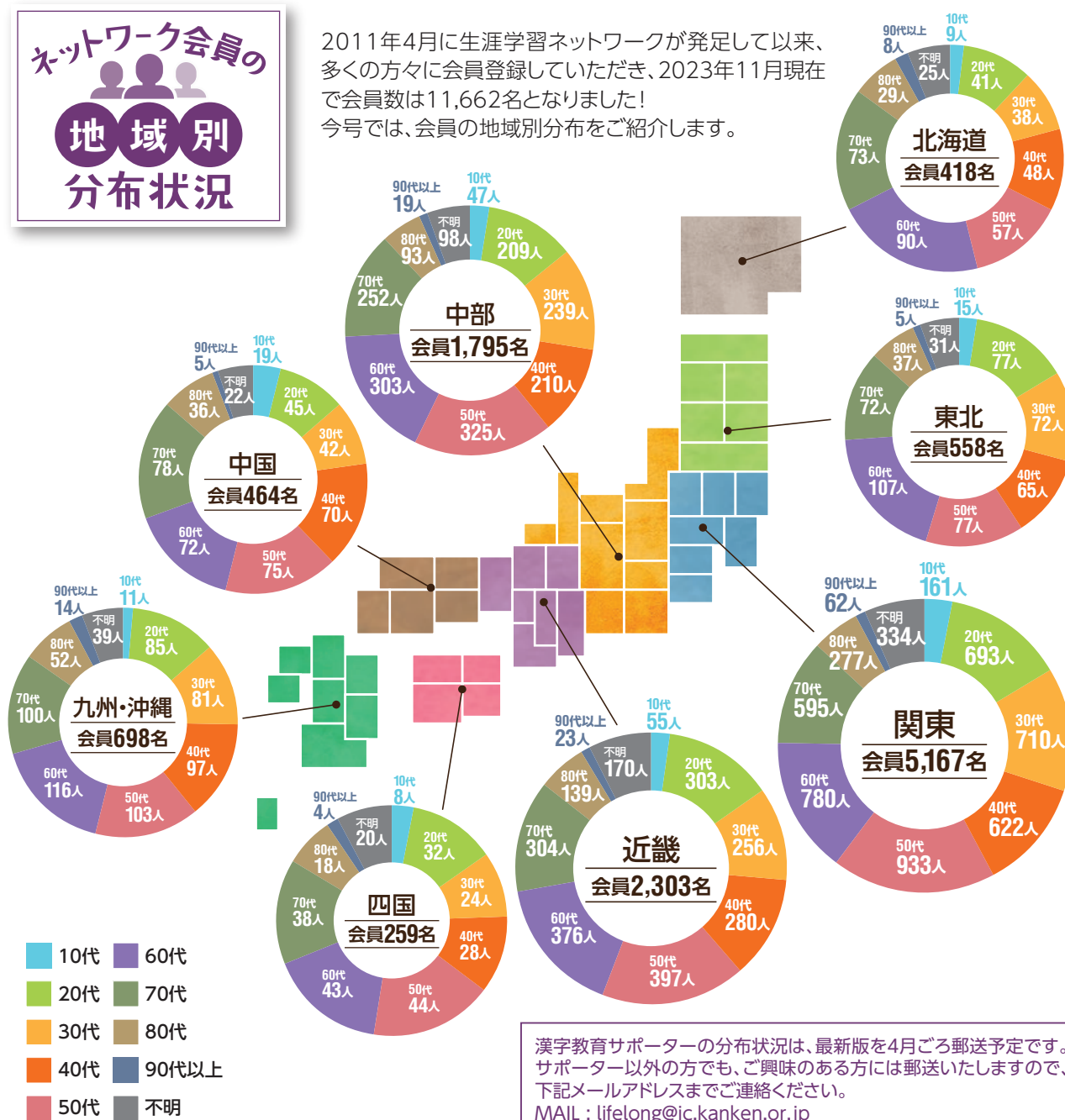
2024年度 生涯学習ネットワーク研修会の日時・場所が決まりました

4月7日(日)	7月7日(日) (予定)	11月3日(日・祝) (予定)
東京都千代田区	福岡県福岡市	京都府京都市
JR四ツ谷駅周辺	博多駅周辺	漢検 漢字博物館・図書館 (漢字ミュージアム)

状況によって変更する場合がございます。4月7日(日)の詳細は同封のチラシにてご確認ください。

ネットワーク会員の 地域別 分布状況

2011年4月に生涯学習ネットワークが発足して以来、多くの方々に会員登録していただき、2023年11月現在で会員数は11,662名となりました！
今号では、会員の地域別分布をご紹介します。



漢字教育サポーターの分布状況は、最新版を4月ごろ郵送予定です。
サポーター以外の方でも、ご興味のある方には郵送いたしますので、
下記メールアドレスまでご連絡ください。
MAIL : lifelong@ic.kanken.or.jp

漢字クイズ 難読地名 静岡県

今回は、静岡県の地名を紹介します。
以下の3つの地名は何と読むでしょうか。

- ① 茱萸沢 (御殿場市)
- ② 産女 (静岡市葵区)
- ③ 将監町 (浜松市東区)



解答は7ページへ



漢字研究の大通りから一歩わきみちに踏み込めば、また違った景色が広がっています。このコラムでは漢字文化研究所の研究員が「漢字の小径」をご案内します。

漢字文化研究所とは、日本文化の側面から日本の漢字をつまびらかにする調査研究等を行うために、日本漢字能力検定協会内に置かれた組織です。



漢字文化研究所・研究員

伊藤 令子

文字を食べる“紙魚”

先日博物館内の害虫をまとめたパンフレットを目にする機会がありました。その中で特に目を引いたのはシミと呼ばれる虫です。シミは書籍や衣服を齧^{かじ}って穴を開けてしまう虫で、その形状は魚に似ています。他方現在「シミ」を表す漢字は、その特徴から、「紙魚」や「衣魚」といった、害虫のイメージとは裏腹の趣深い表現が用いられています。

中国ではこのシミ類を元々「蟬」という漢字で表していたようです。中国最古の語釈書とされる『爾雅』「釋蟲」には「蟬、白魚也(蟬は白魚である)」とあります。そして『爾雅』には、西晋の時代郭璞^{かくはく}という人物が注をつけているのですが、郭璞は「蟬」に対し「衣書中蟲、一名蛭魚(衣類・書物の中にいる虫で、別名を蛭魚という)」と説明を加えています。衣書中の虫で、かつ別名に「魚」が入ることから考えると、「蟬」とは現在シミ類とされる虫を指していると推測できます¹。

では昔の中国では「シミ」に対して「紙魚/衣魚」の漢字を用いなかったのかということではありません。「紙魚」の字の使用例はあまり多くはありませんが、唐代に成立した類書『初学記』巻十二「職官部下・秘書監第九」には、三国時代の魚豢^{ぎょかん}編の史書『典略』より「芸臺香辟紙魚蠹^{みやく}、故藏書臺稱芸臺(芸臺の香りは紙魚の蝕みを防いでくれる、故に蔵書台は

芸臺と呼ばれる)」²との一節が引用されています。また「衣魚」でシミ類を指す例も、北宋の寇宗奭^{こうそうせき}がまとめた『本草衍義』巻十七や明の本草学者李時珍^{りじちん}の『本草綱目』巻四一「蟲之三」等の様々な本草書³で度々確認ができます。

特に『本草綱目』では、衣魚(シミ)をめぐる興味深い話が紹介されています。例えば李時珍は、「俗傳壁魚⁴入道經中食神仙字、則身有五色、人得吞之、可致神仙。唐張易之之子、乃多書神仙字、碎剪置瓶中、取魚投之、冀其蠹食、而不能得、遂致心疾(俗に伝わるには、壁魚(衣魚)が道教經典中に入り神仙の字を食べると、その身が五色となり、人がこれを飲み込めば、神仙になると。唐の張易之の子は、神仙の字を多く書き、それをばらばらに切って瓶の中に置き、衣魚を取って投げ入れ、衣魚が(神仙の字を)食べることを願ったが、それが叶わず、精神を病んだ)」という話や、あるいは衣魚が神仙の文字を三度食べると、「脉望^{みやくぼう}」という丹藥を得るための材料に変化する話を挙げています⁵。

李時珍自身はこれらの話をでたらめな俗説の例として記していますが、虫が特定の文字を食べることによってそこに靈性を宿すという発想からは、人間がかつて「文字」を神聖視していた痕跡が垣間見えます。

1.『爾雅注疏』巻九「釋蟲」参照

2.「芸臺」はアブラナのこと、「蔵書臺」は書物を収蔵する場所を指す。

3.薬の材料となる動植物や鉱物等についてまとめた薬物に関する書のこと。

4.『本草綱目』には衣魚の別称の一つとして「壁魚」が挙げられている。

5.前者の張易之の子の話は、北宋の小説総集『太平廣記』巻二六一「嗤鄙部」に、北宋の説話集『北夢瑣言』出典の話として、「張氏子」の題で収録されている。また後者の「脉望」の話も、『太平廣記』巻四二「神仙部」に、唐代の説話集『原化記』より引かれており、「何諷」という題で掲載されている。



見かけによらない漢字たち… 漢検受検の際は要注意！

徹と撤、醇と惇など旁が同じなら読みも同じ…多くの漢字に見られるルールで、知らない漢字でも旁から読みを類推する方は多いのでは。しかし！漢検1級の出題対象約6,000字の中には、見た目が似ていても読みが異なる字がたくさんあります。中には丸ごと同じ形というケースも!? 前回に引き続き、注意が必要な読みを持つ漢字に注目してみましょう。

最近の1級検定で出題された見かけによらない漢字を2種類紹介します。

同じ旁でも要注意

【2023年度 第1回1級検定問題より】※問題形式と設問文は実際の検定と異なります

次の下線部分の読みをひらがなで記せ。(音読み)

1. 同士達と分袂して渡航の途に就いた。(標準解答:ぶんべい)
2. 組織を虫食む病竈を抉別する。(標準解答:けってき)



ポイント

「分袂」は「ぶんけつ」「ぶんかい」の誤答が多かった問題。字形が似ている字の学習時は注意を払いましょう。

袂
音 ベイ
訓 たもと

抉
音 ケツ
訓 えぐる・こじる

さらに、
こんな
1級字も!

馱
音 ゲキ・ケツ
訓 もず



参考:「漢字ペディア」

同じ字体の別字!?

【2023年度 第1回1級検定問題より】※問題形式と設問文は実際の検定と異なります

次の下線部分の読みをひらがなで記せ。(音読み)

1. 某年月日秦王趙王の為に缶を撃つ。(標準解答:ふ)



ポイント

一見常用漢字の「缶(かん)」と間違えやすいですが、文脈に注目すると、「かん」ではなく別字の「ふ」だとわかります。

缶
1級漢字
音 フ
訓 ほとぎ

象形文字。ほとぎ。もたい。口をつぼんだ素焼きの器。

缶
準2級漢字
音 カン
訓 外 かま

旧字体は「罐」だが、今は「缶」という新字体で表記される。
かま。かん。ブリキなどの金属製の容器。

参考:「漢字ペディア」



今では同じ字体になりましたが、もとは別の字です。見た目からの判別方法はなく、前後の文脈から判断するとよいでしょう。

【字体が全く同じ別の漢字】

予
8級漢字 常用漢字
旧字体は「豫」。身近な「予定」や「予告」に使われているのはこの漢字です。

予
1級漢字
象形文字。
①われ。自称。「予輩」
②あたえる。あずかる。「賜予」
③ゆるす。

参考:「漢字ペディア」

欠 ≠ 欠
1級漢字 7級漢字
余 ≠ 余
1級漢字 6級漢字

どんな読み・
意味があるかは
漢和辞典で
チェック!



漢字教育サポーターリレーコラム

第20回

このコーナーでは、リレー形式で漢字教育サポーターの皆さまによる漢字や漢字教育活動に関するコラムを掲載します。

第20回は東京都にお住まいの大西 純さんにご執筆いただきました。

2年間の活動を3段階で振り返る

第9期漢字教育サポーター 大西 純

2021年に漢字教育サポーター登録をしてから2年がたち、サポーター仲間の助けにより一般向け漢字講座を3回受け持つに至ることができた。

何から始めてよいかわからずサポーターのプロフィール記入にも困惑した当初からの2年間で3段階で振り返ってみたい。

第1段階：サポーター仲間を増やす。

サポーター登録後しばらくして同期会発足とメンバーの募集案内があった。押野 健氏が発起人という。私は早速応募した。同会は「菁莪會(せいがかい)」と名付けられ、Zoomによる定例会が始まった。菁莪會メンバーの藤本 正史氏から「横濱漢字の会」への誘いがあり同会にも入会した。さらに「漢字教育士Zoom顔合わせ」にも参加することで期を越えたサポーター仲間が増えていった。

第2段階：発表の場数を踏む。

各会合で可能な限り発表をした。発表回数は28回(23年9月末現在)。ネタの開発と蓄積、資料作成の経験を積むとともに、同期や諸先輩方からの批評や助言を受けることができる貴重な機会である。これを通じて自身の得意分野も見えてくる。

第3段階：一般向け漢字講座に臨む。

横濱漢字の会で北島 茂治氏から一般向け漢字講座「あさひ漢字塾」への誘いを受け、同講座で3回講師を務めた。いま痛感することは以下の2つである。

①身近なネタ

漢検1級水準の非日常的な漢字より身近な漢字の深掘りがよい。「取」は耳と又(手)を組み合わせた形で敵兵の耳を切り取ること」のようなネタの方が受講者の印象に残る。

②活動時間の確保

初めての講座で60枚のスライドをひたすら説明した。受講者の反応は薄く、居眠りも見られた。クイズ、ゲームやモノの製作など活動を適度に入れると受講者の能動性が高まり講座が活性化する。

上記の3段階を経て2年、漢字教育サポーターとしていくらか進歩したと思う。これもひとえに多くのサポーター仲間の御蔭である。仲間の大切さを実感している。

大西さんからのご紹介で

今回は沖縄県の大城 良紀さんのコラムを掲載します。
お楽しみに!

漢字クイズ 難読地名 静岡県

解答

- ① ぐみざわ (御殿場市)
- ② うぶめ (静岡市葵区)
- ③ しょうげんちょう (浜松市東区)

【今回の一字】 莢 (1級)

音：ユ

訓：

意味：木の名「茱萸(シュユ)(かわはじかみ・ぐみ)」
に用いられる字。

参考：『漢検 漢字辞典[第二版]』・『漢字ペディア』※「漢字ペディア」は登録商標です。

オリジナル漢字クイズ・パズルを募集中! 8ページの投稿先までお送りください。

お知らせ

会員通信への 投稿募集中!

会員通信を充実させるため、会員の皆さまからの積極的なご投稿をお待ちしています。

アンケートにご回答、もしくはご投稿いただいた方の中から抽選で3名の方に「今年の漢字」図書カード(500円分)をお送りいたします(当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます)。



会員向けアンケート回答方法

今回のアンケートテーマ「漢字以外で熱中していること」

皆さんの漢字以外に好きなこと、熱中していることについてぜひ教えてください。

右記の二次元コードを読み取るか右記のアドレスを入力し、2024年3月17日(日)までにご回答をお願いいたします。

https://ssl.kanken.or.jp/webapp/form/16770_avy_797/index.do

※上記のアドレスにアクセスできない場合、メールにてお知らせください。郵送・FAX・メールいずれかの方法でアンケート用紙をお送りいたします。



1級に初めて合格しました!

あなたの合格体験が、1級を目指している方々の励みになります。どのようにして合格に至ったのか、「あなたの」体験をご投稿ください。

投稿内容: ①合格時期
②合格までの受検回数
③合格に向けて工夫したこと、励みになったこと
④合格した時の気持ち、感想
⑤今後の目標

※文字数: 項目①～⑤までの合計で500字以内

※対象: これまでに1級合格経験のある方

※当協会運営のWebサイト「漢字カフェ」に、お名前を伏せて掲載させていただく場合がございます。

投稿方法

①～④を明記し、メールまたはFAX、郵送にて下記の投稿先にお送りください。

①会員番号 ②氏名(ペンネームも可) ③電話番号
④各コーナーへの投稿内容やご意見・ご感想

投稿先 日本漢字能力検定協会
生涯学習ネットワーク担当

メール: lifelong@ic.kanken.or.jp

FAX: 075-532-1110

郵送: 〒605-0074

京都市東山区祇園町南側551番地

次号の締切日: 2024年3月17日(日)

※投稿・会員通信へのご感想は随時受け付けております。

※お名前・ご連絡先を投稿される場合、掲載しても差し支えないかご確認ください。

※ご投稿いただいた内容は、当協会運営のWebサイトに掲載させていただきます場合がございます。

※未成年の方は保護者の方の同意を得て、ご投稿をお願いいたします。

※全てのご投稿を掲載、採用できるわけではございません。また、原稿は一部割愛・校正させていただきます場合がございます。

イベント告知

ネットワーク会員に向けて、漢字に関するイベントや学習会、研修会の告知ができます。

投稿内容: ①日時 ②会場 ③内容 ④参加費
⑤公開してもよい連絡先(メールアドレス・電話番号等)

※会員通信は6月、10月、2月に発行予定です。情報をお寄せいただいた時期によっては、会員通信ではなく、メールマガジンでのお知らせとなる場合がございます。

バックナンバー

会員通信のバックナンバーは、協会Webサイトで読むことができます! 見逃した号やもう一度読みたいコーナーは、こちらからご覧ください。



<https://www.kanken.or.jp/kanken/lifelong/news.html>

メールマガジン

登録者
募集!

漢検 生涯学習ネットワーク会員向けメールマガジンには登録されていますか?

外部講座や漢検の最新情報、漢字クイズなどの内容を月に1回程度配信しています。メディアへの出演依頼があることも!

メルマガ登録を希望される方は、生涯学習ネットワーク登録変更フォームから、「メールマガジンの登録」を「希望する」に変更してください。登録したけれどメルマガが届いていない、という方も再度ご登録してみてください。



https://ssl.kanken.or.jp/webapp/form/16770_avy_103/index.do



公益
財団法人

日本漢字能力検定協会

本部 〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地
※「漢字検定」「漢検」は登録商標です。

<https://www.kanken.or.jp/>



0120-509-315

月～金9:00～17:00(祝日・お盆・年末年始を除く)

※検定日とその前日の土・日は窓口を開設

※検定日は9:00～18:00

